

会 長 挨拶

富山県産婦人科医会 会長 伏木 弘

本会は富山県内の総合病院や診療所（開業医）に勤務する産婦人科医師による団体です。令和2年9月2日の時点で会員数は102名であり、富山県産婦人科学会と協力し、女性疾患（小児期～思春期～性成熟期～妊娠・出産～更年期～老年期）すべてとその他の悩み事に関する相談などの支援活動を行っています。具体的には、妊娠、出産、新生児に関する周産期（母子保健）分野、不妊症・不育症の診断、治療を行う生殖医療分野、思春期の性教育、女性のメンタルヘルスケア、性暴力対策などの女性保険分野、子宮頸がん検診、子宮頸がんワクチンの普及啓発や婦人科疾患の治療を行う婦人科腫瘍分野でそれぞれの専門医が皆様の健康を守るために日々活動を行っています。令和2年度は昨年末からの新型コロナウイルス感染予防の徹底、妊婦への感染予防の呼びかけ、感染者発生および感染が濃厚である場合の対応についての周知徹底から始まり、ようやく全妊婦さんの出産前のPCR検査体制が整い開始されようとしています。特に、現在産婦人科医会で問題となっているのは、少子化対策、HPVワクチンの接種推進、そして新生児聴覚検査助成などです。少子化対策に関しては、富山県の出生数が昭和47年にピークを迎え、その後減少し平成30年には6,846人となり減少の一途をたどっています。この少子化対策の具体策に関しては、産婦人科医会の立場としてはできるだけ安心して妊娠そして出産をしていただきたい環境を整備することだと思います。現在、富山県内の市町村と連携し、安心して妊娠・出産育児ができるように、妊婦健診料を14回、分娩手当金（42万円）の支給、産婦健康診査料2回分（1万円）の助成を受けることができるようになっていきます。今後は、すべての妊婦さんが全額助成（無料）で出産ができるように働きかけていきたいと思っています。また不妊症・不育症の治療に対しても助成を受けることが可能です。HPVワクチンの接種推進については、積極的勧奨が中止されていますが、対象者に「対象年齢です」という案内を個別に通知送付することは積極的勧奨に該当しません。そこで接種率向上のために富山県産婦人科医会、富山県小児科医会、富山県医師会が協働で啓発や自治体への働きかけを行い、接種対象者に個別通知を送付するなどの方法で案内を開始しています。さらに、富山県では立ち遅れている新生児聴覚検査助成について、昨年度の「新生児聴覚検査協議会」において強く助成を求めた結果、2つの市町村において本年度からの助成開始につながりました。現在の最新の情報は、富山県内の産婦人科医会の会員とメンバーリストで連携をとっておりますが、今後の更なる充実した診療体系構築のためにこのホームページをご活用ください。